

論文の内容の要旨

論文題目 本動詞から補助動詞への文法化
—韓国語の<doeda 構文>と<jida 構文>を中心に—

氏 名 石 賢敬

韓国語の形容詞「빨강다 ppalgata 赤い」を「赤くなる」という状態変化の表現にすると、「게 되다 ge doeda」と「아지다 ajida」の二通りがある。

(1) a 나뭇잎이 빨강게 되었다.

Namunnipi ppalgake doeeotda

木の葉が 赤く なった

木の葉が赤くなった

b 나뭇잎이 빨개졌다.

Namunnipi ppalgaeyeotda

木の葉が 赤い—jida

木の葉が赤くなった

次の(2)は、形容詞の状態変化の表現として用いられた「게 되다 ge doeda」と「아지다 ajida」に先行する動詞「만들다 mandeulda 作る」が先行する例である。

(2) a 경제적 문제점을 소개하기 위해 블로그를 만들게 되었다.

Gyeongjejeok munjejeomeul sogahagi wihae beulleogeureul mandeulge doeeotda

経済的 問題点を 紹介する ために ブログを 作る-ge なった

経済的問題点を紹介するためにブログを作るようになった

- b 전문가들의 연구에 의해 우리나라에 해저통로가 만들어졌다.
 Jeonmungadeurui yeongue uihae urinarae haejeotongnoga mandeureojyeotda
 専門家たちの研究によって我が国に海底通路が作る-ajida
 専門家たちの研究によって我が国に海底通路が作られた
- c 크리스마스 트리가 정말 잘 만들어졌다.
 Keuriseumaseu teuriga jeongmal jal mandeureojyeotda
 크리스마스 트리가 本当に うまく 作る-ajida
 크리스마스ツリーが本当にうまく作れた

(2a) の「게 되다 ge doeda」は、日本語の「V ようになる」に対応し、(2b) と (2c) の「아지다 ajida」は、各々「受動」と「可能」の意味を表し「V (ら) れる」に対応する。本稿は、形容詞が先行すると大まかに「なる」の意味で共通すると思われる「되다 doeda」と「지다 jida」について考察している。第2章は、<되다 doeda 構文(動詞・形容詞の語幹+게 되다 ge doeda)>について、第3章は、<지다 jida 構文(動詞・形容詞の語幹+아지다 ajida)>について取り上げている。また、第4章は、<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>に関わりがあると思われる日本語の「てくる」「ていく」と、これらに対応する韓国語の「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」について考察している。

形容詞が先行する<되다 doeda 構文>は、(1a) のように自然現象としての状態変化の意味を表すだけでなく、次にあげる(3) のように何らかの理由(「火加減の調節で」、「新米に変えて」)があつて起こる変化の意味をも表すとまとめている。

- (3) 밥이 맛있게 되었다.
 Babi masitge doeeotda
 ご飯が おいしい-ge なった
 ご飯がおいしくなった/出来た

また、動詞が先行するの<되다 doeda 構文>については、先行する動詞を「行為動詞」と「思考動詞・知覚動詞」にわけ、<되다 doeda なし構文>との相違点をあげる一方、<되다 doeda 構文>独自の意味について述べている。

行為動詞の<되다 doeda 構文>は、行為を引き起こす<外的事情>によって意図が生じ、その結果、行為が行われるという意味を表す用法とし、行為の意図の原因となる<外的事情>を、<仕方なく>、<目的>、<外的理由>の3つに分けて考察した。また、これらは、否定文のつづくことが可能で、<되다 doeda 構文>を用いることで、元來行為動詞の表す行為の表現が必ずしも含意されないことがわかった。また、<あやまって>で扱った用法の(4)をあげて、意図的な[行為A]をすることで意図しなかった[変化B]が生じる表現としてまとめた。

(4) 太郎는 컴퓨터를 사용하고 있었는데 자료를 지우게 되었다.

Taroneun Keompyuteoreul sayonghago isseotneunde jaryoreul jiuge doeetda

太郎は パソコンを 使って いたが 資料を 消す-ge なった

太郎はパソコンを使っていたが (あやまって) すべての資料を消した

(4) は、意図的に行われた[行為 A (パソコンを使う)]が、意図していなかった[変化 B (資料が消える)]を生じさせてしまう意味を表すのである。

これら行為動詞の<되다 doeda 構文>に共通しているのは、意図のあり方が、典型的な行為動詞の意図とは違う点である。また、行為動詞の<되다 doeda 構文>のうち、<あやまって>の場合同様、否定文がつづくことかできない (行為の実現が含まれる) 思考動詞および知覚動詞の<되다 doeda 構文>は、「時間的経過」を表す副詞句を伴うという特徴があることがわかった。

第3章で取り上げた<지다 jida 構文>は、形容詞が先行すると (1b) のように<状態変化>を表す。動詞の<지다 jida 構文>については、本動詞「지다 jida」が持つと思われる<自発>の意味に基づく<지다 jida 構文>が、どのような意味を持つかについて見た。<지다 jida 構文>がどのような意味を持つかは、元々の動詞自体の性質と関係があることが分かった。以下に、一覧として示すことでまとめとした。

(5) 動詞のタイプによる<지다 jida 構文>

	受動	可能	状態変化	自発	動詞
A タイプ	◎	×	×	○	他動詞 (対になる自動詞が存在しない他動詞)
B タイプ	○	○	×	○	他動詞 (対になる自動詞が存在する他動詞)
C タイプ	×	◎	×	○	自動詞 (非能格動詞)
D タイプ	×	×	◎	○	自動詞 (状態変化動詞)
E タイプ	×	×	×	◎	自動詞 (非対格動詞)
F タイプ					보다 boda 見る、듣다 deudda 聞く、모르다 moleuda 分からない

<지다 jida 構文>を用いることのできない最後の【Fタイプ】のうち、「보다 boda 見る、듣다 deudda 聞く」は、<自発>の意味を表す「보이다 boida 見える、들리다 deullida 聞こえる」という動詞がある。一方、「모르다 moleuda 分からない」は、「~ようとする」という意図を持つ表現が不可能であり、主語にくるものによる「コントロール」のできない動詞である。ただし、「보이지다 boajida 見る-jida」は、本来の意味である「見る」の意味ではない場合、次の(6)のように<지다 jida 構文>を用いることも可能である。

(6) A: 너 요새 선배랑 자주 만나더라.

Neo yosae seonbaerang jaju mannadeora

あなた 最近 先輩と よく 会ってるのね

あなた、最近先輩とよく会ってるのね

B: 너무 깊게 생각 안하려고 하니까 편하게 봐지네.

Neomu gipge saenggak anharyeogo hanikka pyeonhage bwajine

あまり 深く 考えないようにしたら 気楽に 見る—jida

あまり深く考えないようにしたら気楽に会えるよ

第4章は、補助動詞として用いられる、日本語の「てくる」「ていく」と韓国語の「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」を中心にして考察した。その際、両語の対照のために、吉川(1976)の分類にしたがって説明を行っている。補助動詞の意味を客観的に記述するため、本動詞「クル」「イク」(「오다 oda 来る」「가다 gada 行く」)の基本的な意味を明らかにし、「てくる」「ていく」と対応する韓国語の「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」が空間的移動を表す典型的な移動の意味から、時間的移動までその意味が広がることが分かった。

また、研究の対象としてあげた三つについて、次のようにまとめている。

第一に、「아 오다 a oda」にはない「てくる」の表現として「分かってきた」などの例をあげ、<心理的变化(心理的方向性)>の意味が、「てくる」には含まれるのに対して、「아 오다 a oda」は含まない表現であるという点に注目して考察を行った。寺村(1984)は「てくる」について、「XガVスル」という現象がひとつの幅をもったものとして、話し手への接近を表すとしている。これは話し手による積極的な行為ではないことであり、事象、事態などに注目し、話し手という場所に接近するとも考えられ、<変化の過程>をもつことと、その現象が主語たるものにおいて起こるといふこと、すなわち<全体的状況>として捉えるものとして扱った。

また、このような「てくる」を韓国語にするときは、<되다 doeda 構文>、<지다 jida 構文>が用いられることをみた。しかし、これらは起こった事態に対して、<되다 doeda 構文>は何らかの原因による<変化>を表し、<지다 jida 構文>は自然に起こったという意味としての<変化>を表すのである。

一方、「てくる」のように、<変化の過程>を含む意味を表すためには、日本語の「ていく」に対応する「아 가다 a gada」が用いられる。しかし、「아 가다 a gada」は、話し手から遠ざかる意味が生じるので、「てくる」の意味を十分に満たすことができない。つまり、<変化の過程>の意味を表す「てくる」を韓国語にするときは、<되다 doeda 構文>、<지다 jida 構文>あるいは「아 가다 a gada」を用いるが、この中のどの表現にしても、「てくる」の意味を表すには足りない部分がある。

第二に、「ていく」にはない「아 가다 a gada」についてみた。「아 가다 a gada」が「完成の到達点指向の持続」をその基本的な意味とするということ、で、「時間的方向」もし

くは「コトに対する完了」までも表すことができるのである。また、「ていく」と「아 가다 a gada」は、すでに生じた事態に対して、それを見つめる気持ちになるという意味をもつので、事態は話し手の意志を越えた力として捉えられる。つまり、「ていく」と「아 가다 a gada」を用いることで、自身の心境や感覚を表すことによって、自身の意志を越えて結果がそうなったことを表すのである。

第三に、「てくる」「ていく」(韓国語の「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」も含めて)に、形容詞が先行する場合についてみた。日本語の場合、「～くなって、～になって」の形を用いることで「てくる」「ていく」との結びつきが可能になるのに対して、韓国語の場合は動詞と同じ形式を用いるのである。また、韓国語においては、「だんだん」のような漸次的意味を表す副詞句がなければならないという制約があることが分かった。

最後の第5章は、第2章の<되다 doeda 構文>と第3章の<지다 jida 構文>における制約と意図性を(7)の表に示し、本稿のまとめとした。

(7) <되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>における制約と意図性

	制約		意図性
	形容詞	動詞	
<되다 doeda 構文>	ある (本動詞「되다 doeda なる」から「出来る、出来上がる」への拡張があるため)	ない	<外的事情>によって生じる、あるいは意図に反する
<지다 jida 構文>	ない	보다 boda 見る、듣다 deudda 聞く、모르다 moleuda 分からない	不問にする、意識しない、関与できない